

# 8月号

# School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



# Dream通信

2012. 8. No. 53

## 自国の財産に触れる ～アンコールワット卒業研修～



渡邊代表理事とアンコールワットへ！



ガイドの説明を熱心に聞く



代表理事との別れ

皆さんこんにちは。最近のカンボジアでは、昼間かんかん日照りになっても夕方必ず暗くなり雷がところどころで鳴り響いています。園では雷が近くに落ちたことで、パソコンが一台故障するというハプニングも起きました。そんな中子どもたちは相変わらず元気に走り回っています。

さて、今回のDream通信では、7月に開催したアンコールワット寺院への卒業研修、そして本格的に稼働し始めた孤児院裏の農場の状況についてお伝えします。

### 初めてのアンコールワット

7月24日、以前に渡邊代表理事が約束してくれた卒業研修に、中学3年生8名、高校生3名が、カンボジアの世界遺産、アンコールワット寺院へ行ってきました。事前学習にてレポートを書き、アンコールワット寺院やその遺跡群の歴史や意味について調べ、それぞれにアンコールワットへの想いを強くして望みました。

7月24日朝7時、子ども11名と職員3名がシムリアップに向かう車に乗り込みました。今回の研修は2泊3日、子どもたちは初めてシムリアップに行き、長い期間を代表理事と過ごします。空港で代表理事を迎え、食事をしましたが、初日は1日中緊張してなかなか言葉を発せずにいました。2日目は早朝から念願のアンコールワット見学です。歩いて歩道を進み、アンコールワットがだんだん姿を現し、子どもたちから歓声が上がりました。教科書で読んだり、新聞で見たりしていましたが、初めて実際に見る自分たちの国の遺産に、心から感動していました。その日の夜には、子どもたちは自分たちの祖先の偉業に感動した、友達や園の他の子たちにも見せてあげたい、と代表理事に感想を話しました。それに対して代表理事は、誰でもアンコールワットが見れる、カンボジアをそんな豊かな国にしよう、と子どもたちと固く約束しました。

今回子どもたちは、自分の生まれた国の遺産に触れ、自分たちが将来この国を豊かにするんだ、と意識を強く持つてくれました。いつもよりも代表理事と長く時間をともにし、色々なものや考え方に触れ、新たな経験を得た子どもたち、少し大人になって園に戻り、また勉強の毎日に精を出して欲しいと思います。





広大な土地がみるみる畑に！



大きな畑に次々と野菜が芽を出す



競争して苗作り



さつまいもの苗に土寄せ

## 農園耕起

6月から徐々に孤児院の裏の農園を耕運機で耕し始めました。園で最も体の大きいウオイ・マッカー(17才)と、ハイ・トル(16才)は、夕方学校から帰ってから時間を見つけ、耕運機で広大な土地を耕し続けています。乾季にはカチカチだった土も今は土中に水分を保ち、鍬ではなかなか起こせなかった土が、どんどん軟らかでふかふかした畑に変わっていています。鍬で削ったしぶとい雑草も根こそぎ鋤き込み、肥料にしています。

畑ではないところにも雑草が繁茂していたので、大勢の子どもたちで草刈を行い、道を作っていました。道を作り、耕運機も人も通りやすくなり、見る間に大農園らしく変貌していきました。

## グループ農作業再開

そうして7月半ば、ようやく子どもたちのグループ農作業を再開しました。前は牛に作物を食べられ散々な結果に終わってしまいましたが、今の時期カンボジアの牛達は田植えに勤しみ、孤児院の農園には入ってこないようです。そして前回1グループ5m四方だった畑も、今回は2倍の10m四方の畑です。始め、子どもたちは随分と大きな畑に戸惑っていましたが、少しずつ畑を整え、肥料をやり、イメージが湧いてきたのかどんどん種を植え、毎日夢中になって畑を見に行くようになりました。

今子どもたちにダントツの人気はとうもろこしです。甘い実をたくさん食べたいと10㎡の畑全てにとうもろこしを撒いているグループもあります。前は牛のせいで、順調に育っていたとうもろこしが気づいたら半分の背丈になっていたのも、悔しい思いが強いようです。

他には、空芯菜、インゲン、落花生、ゴーヤ、さつまいも、キャッサバ、ハーブなどを育てています。

## 心を鍛える

このグループ農作業では、グループで取れた野菜はそのグループの子どものみが食べられます。つまり頑張った子どもは頑張った分の収穫を得、おいしく食べることができます。普段孤児院の食事は白いご飯とおかずが1品ですが、たくさん収穫できればもう1品自分たちで野菜を調理し、食べることができます。ここで子どもたちは農業の初めである作物を植え付けるところから、収穫して食べるまでを学びます。

園にくる前には、日銭を稼ぐために近所の家で、農作業をしていた子どもや、野生の植物を探して家に持って帰って食べていた子どももいました。そのため、農業が大変な仕事であることも知っています。しかし、その大変な仕事をこなし、成功させることが出来るぐらいの忍耐力や精神力をつければ、どんな仕事でも努力することが出来、また成功することが出来るのだ、ということを学んで欲しいと思います。